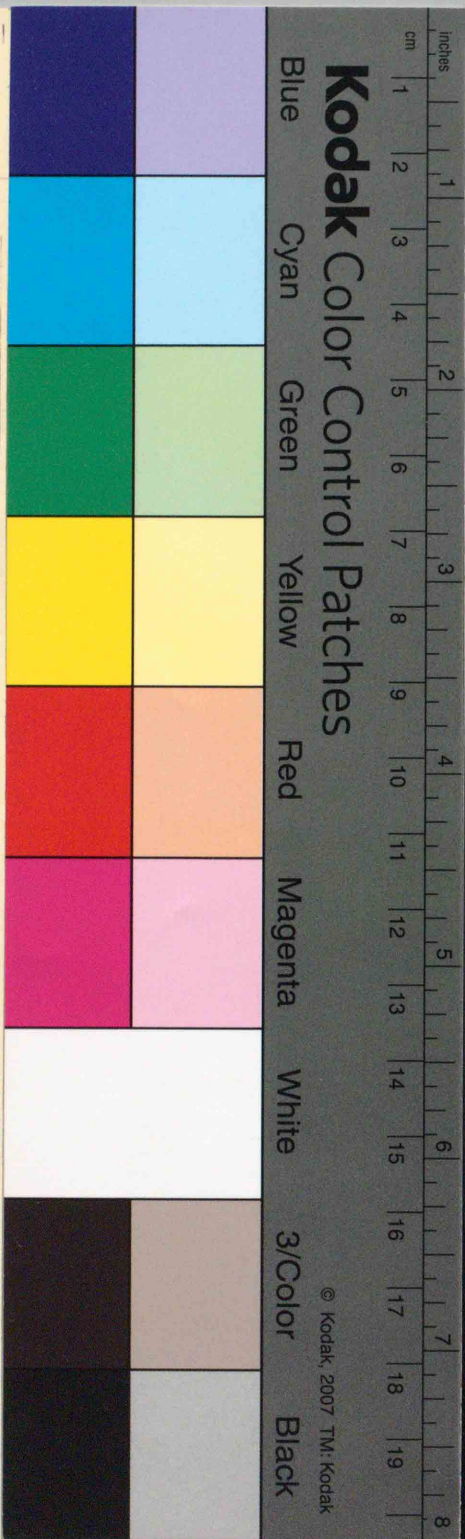


41074

教科書文庫

4
760
51-1932
20000 19076

87
m.2

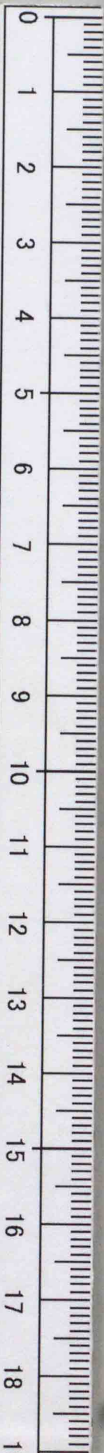


Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



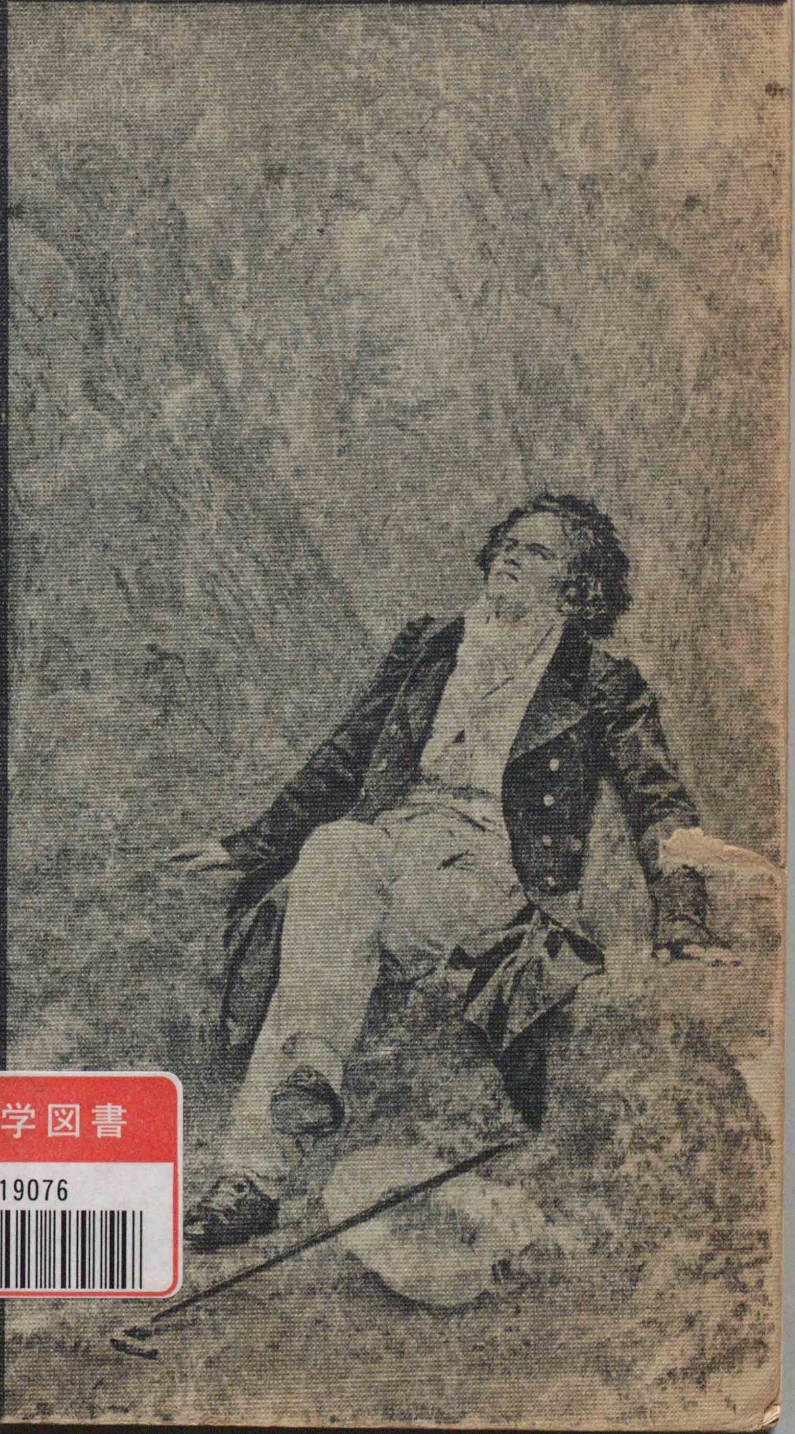
© Kodak, 2007 TM: Kodak



教科書文庫
4
760
51-1932
2000019076

子音樂散科書

共編



広島大学図書
2000019076



375.9
081

資料室

教科書文庫
4
760
51-1932
2000019076

昭和七年八月二十二日

文部省檢定済

師範學校・中學校 音樂科

標準男子音樂散科書

小川一朗
黑澤隆朝
共編

初級用 1

広島大学図書

2000019076



東京

會社 共益商社書店發行

廣島大學
圖書印



リュートを奏する男

絃樂器の奏法



ヴァイオリン



ヴィオラ



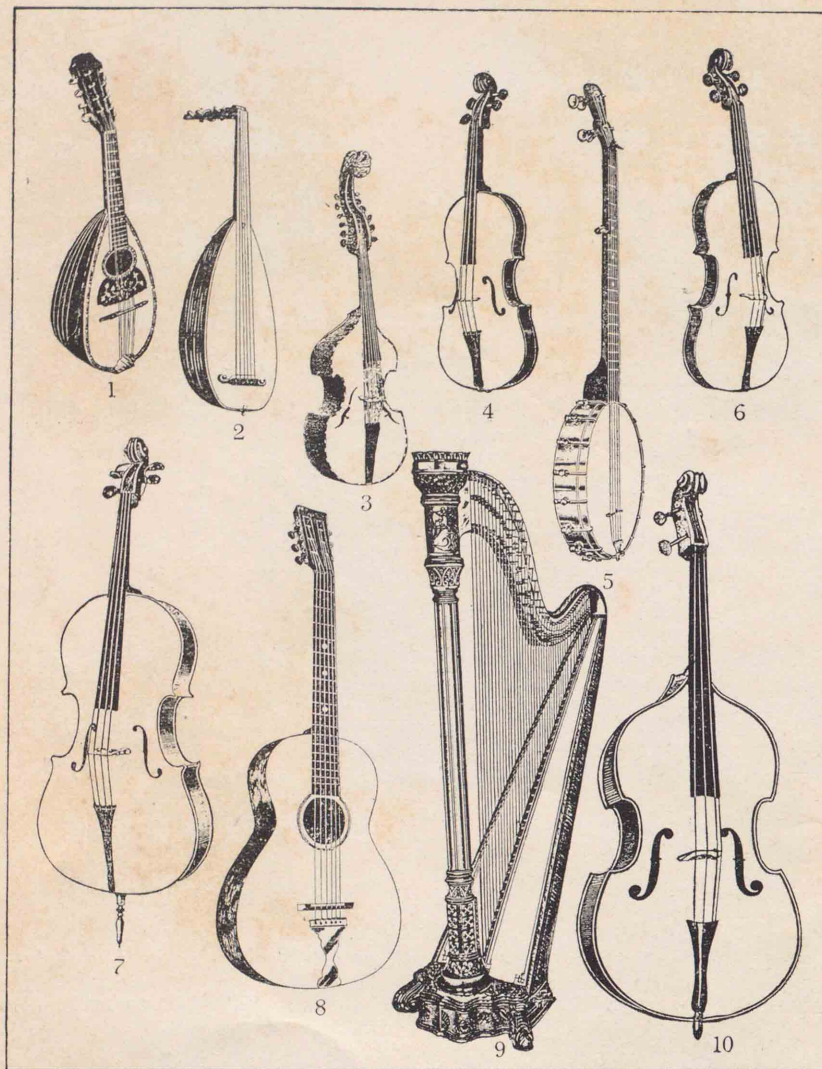
ハープ



ヴィオロンチェロ



コントラバス



1. マンドリン 2. リュート 3. ヴィオラ ダモアレ(古楽器) 4. ヴァイオリン 5. バンジョー
6. ヴィオラ 7. ヴィオロンチェロ 8. ギター 9. ハープ 10. コントラバス

序 言

本書は新たに制定せられた文部省の音楽教授要目に準據して、現代の中學校、及び其の他の男子中等諸學校の音楽教科書として編纂したものである。

本書の主眼とする處は讀譜、歌唱、鑑賞の三方面の竝進主義であつて、特に鑑賞教育に多分の努力を拂つた事である。其の他本書の特色として次の諸點を挙げ得べく、之等は必ずや行詰まれる音楽教育界に何等かの暗示を與へ得ることを堅く信ずるものである。

一 教材歌曲の配列は、音楽形式、リズム、拍子調等に亘つて極めて合理的であり、一片の曲と雖も悉く重要な任務を有するものである。

二 歌詞は現代日本の國民性陶冶を標榜して新作せるもので、語感と曲想との一致、抑揚とアクセントの考慮、樂句と言語、音高と母音の關係、助詞(てにをは)の取扱ひ等未だ顧みられなかつた歌謠の重要方面の解決につとめた。

三 鑑賞曲は讀譜力及び音樂内容の理解程度に應じ、聲樂、器樂を通じ世界的名曲に及び、國民教養上必要と思はれる樂曲の總てを網羅し、中には教授者の演奏に挨つものをも挿入した。

四 隨所に重要音樂家の寫眞評傳等を加へ、又は樂器その他參考となるべき圖解、寫眞等の挿入につとめた。

五 樂典その他の理論は、無味乾燥なる條項的羅列を避け、常に實際に即して圓心的に之を進めていつた。

猶萬全を期して編纂したのであるが、限ある紙面に極限されて、挿入すべきであつた幾多の事項の最少限度を收めた次第であるから、指導者は豊富なる學識と潤達なる經驗技能とによつて縦横自在に本書を運用せられ、讀譜、歌唱、鑑賞の三方面並進主義に立脚して編纂した本書の使命をして意義あらしめる様希望してやまない次第である。

昭和六年十一月下浣

編纂者識す

第一卷

目次

一	音樂の意義	1
二	音樂の組織	1
三	樂譜法	1
四	音名と音程	2
五	譜表	2
六	音部記號	3
七	音符と休符	4
八	附點音符	4
九	拍子	5
一〇	拍子記號	5
一一	四拍子	6
一二	音階と階名	6
一三	ハ調の練習	7
春	の曙	8
一四	三拍子	10
	【鑑賞曲】春のほゝろみ	10
胡蝶と雲雀		10
一五	二拍子	12
	【略傳】ハイドン	13
	【鑑賞曲】『驚愕シンフォニー』より	13
	【鑑賞曲】朝の祈り	13
五月の野邊		14
	【鑑賞曲】ガボツト	15
應援の歌		16
一六	不完全小節による樂曲	18
	【鑑賞曲】歌劇『オルフェオ』より	19

日 章 旗	20
一七 へ 調 の 練 習	22
【鑑賞曲】 スエーデン民謡	23
故 郷 の 追 憶	23
【略 傳】 バツハ	24
【鑑賞曲】 ガボット	24
一八 (♩) の 練 習	24
秋 の 山 樂	26
【鑑賞曲】 埃 國 國 歌	27
一九 ト 調 の 練 習	28
愛 國 の 歌	29
海 國 少 年	30
二〇 = 調 の 練 習	32
二一 八分音符を一拍とする拍子練習	33
遠 足	34
【鑑賞曲】 イギリス歌調	37
冬 の 旅	38
雪 戦	40
二二 (♩ ♪) の 練 習	42
飛 行 機	43
二三 輪 唱 の 練 習	45
福 壽 草	45
野 寺 の 鐘	46
【附 録】	
Twinkle twinkle little star	47
The cuckoo	47
Lightly row	48



一 音楽の意義

音楽とは音を材料として、吾人の思想感情を表す藝術である。音は物体の振動によつて起るもので楽音と噪音とに分つ事が出来る。

楽音とは一定の時間に一定数の振動をなし、音楽に用ひられる音で、その他の音を噪音といふ。

二 音楽の組織

音楽は主として音の高低、音の長短の美的なる配置によつて作られ、此の外音の強弱、音色及び進行の速度等の適當なる考慮によつて完全に表現せられるものである。

三 楽譜法

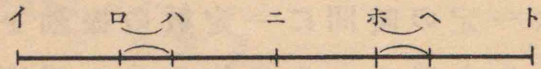
音楽を種々の記號及び標語等によつて完全に、且つ一目再現し得られる様に書かれたものを楽譜といひ、之を構成する方法を楽譜法といふ。

又楽譜法に關する種々の規定を示したものを樂典といふ。

音楽を學ぶには先づ樂典の理を究め、楽譜を正しく且つ速く讀む事によつてなるべく自習自得し、やがて音楽の殿堂にその妙趣を求むべきである。

四 音名と音程

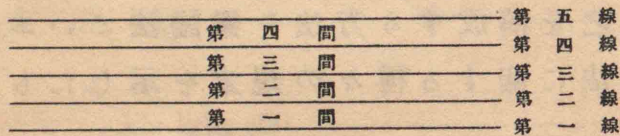
音楽に用ひる音は數多あるが、その基礎をなす七音をこつて之に音高の順序にイロハ等の名稱をつけて音名といふ。又此の七音を基礎七音といふ。



音と音との關係を音程といふ。イロ、ハニ等の音程は廣く、ロハ、ホへの音程は狭い。此の際前者を全音程(全音)といひ、後者を半音程(半音)といふ。

五 譜 表

音の高低を記載するには平行せる五線を引き、線と其の間を使つて音高を定める。之を譜表といひ次の様に呼ぶ。



音の記載の範圍を一層廣くする爲めには、必要に應じ譜表の上又は下に短線を補ひ、之と之によつて生ずる間とを用ふ。次の圖はこれ等の呼び方

を示したものである。



六 音部記號

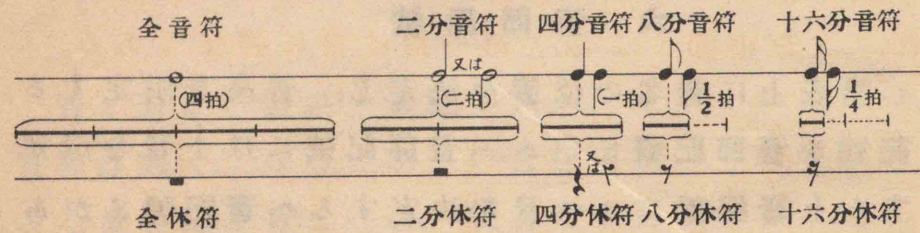
譜表上に音名の位置を決定し、音高を限定する記號を音部記號といふ。音部記號にはト音を決定するト音記號と、ヘ音を決定するヘ音記號とがある。ト音記號は比較的高い部屬の音を表はす故高音部記號とも言ひ、之に對してヘ音記號を低音部記號ともいふ。



高音部記號のついた譜表を高音部譜表といひ、低音部記號のついた譜表を低音部譜表といふ。

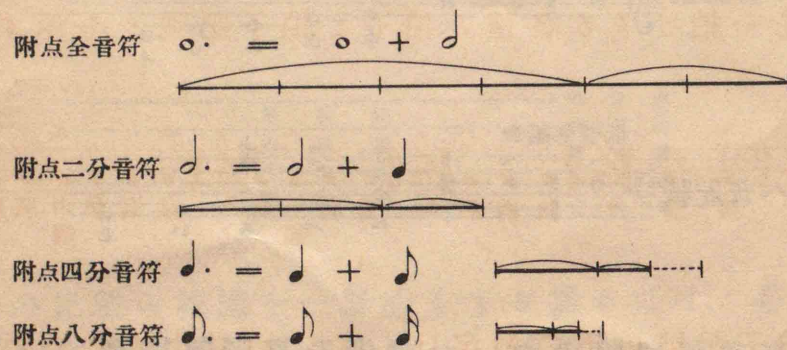
七 音符と休符

音の長さを示す記號を**音符**といふ。之は譜表の上
に示される位置によつて、同時に高さをも示す
ものである。音の休む間を示す記號を**休符**といひ
音符の種類に準ずる。



八 附點音符

右側に小點のある音符を**附點音符**といひ、點は
主音符の二分の一の長さを加へる事を示す。



休符も亦附點休符を作る事ができる。

九 拍子

樂曲の進行には一定の強弱の配列が規則正しく
表れるものである。之を**拍子**といふ。その二拍毎
に強聲の表れるものを**二拍子**といひ、三拍毎に表
れるものを**三拍子**、四拍毎を**四拍子**等こよぶ。

此の拍子の單位は**縦線**によつて明瞭に區分せら
れ、之を**小節**こよび、**第一拍**は常に強聲である。



一〇 拍子記號

拍子を示す記號を**拍子記號**こよび、音部記號の
次に分數の形又はある記號で表される。今四分音
符を一拍とする各種の拍子と拍子記號をこを示す。



拍子記號の下の數字は一拍に相當する音符の種
類を表し、上の數字は一小節間の拍數を表す。

一一 四拍子

四拍子には普通四分の四拍子、八分の四拍子稀に二分の四拍子等がある。



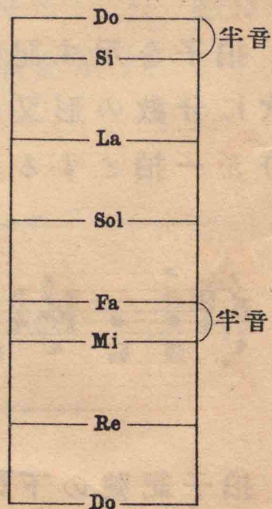
一二 音階と階名

音楽に用ひられる各音を音高の順序に一定の形に配列したものを音階といひ、半音の位置を明瞭にする爲めにドレミファソラシを以つて之を呼ぶ習慣となつてゐる。之を階名といふ。

自然音の配列の中には此の音階の形を只一箇所とる事が出来るのみである。

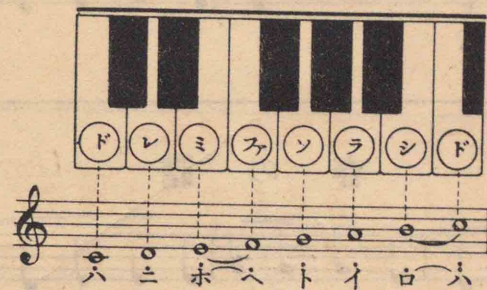
それはハ音をドとする場合で、完全に兩者の半音の位置が一致する。

ハ—ニ—ホ—ヘ—ト—イ—ロ—ハ
ド—レ—ミ—ファ—ソ—ラ—シ—ド



一三 ハ調の練習

ハ音を第一音 (Do) とする長音階をハ調長音階といふ。此の音階は自然音のみで構成せられてゐる故自然音階とも模範音階とも呼ぶ。



1.

2.

3.

春 の 曙

S. Wesley

♩ = 96

一. ハ ナ ニ ア ケ ユ ク ア ケ ボ ノ ニ
二. つ き も お ぼ ろ に あ け そ む る

ユ メ ハ タ ダ ヨ フ ウ ス ガ ス ミ
さ み の あ た り の や へ が す み

ヒ ラ カ ス ノ キ ノ マ ー ド チ カ ー ク
む か し に か ー よ ふ か ー げ み せ ー て

サ ヘ ツ ル ト リ モ オ モ シ ロ ヤ
た な び く さ ま の ゆ か し さ や

—— 次第に強くする(讀方=クレシエンド)
—— 次第に弱くする(讀方=デクレシエンド)

4.

春 の 曙

植 村 甫

一 花に明けゆく あけぼのに
夢は漂ふ 薄霞

開かぬ軒の 窓ちかく
囀る鳥も おもしろや

二月もおぼろに 明けそむる

里の邊の 八重霞

往古に通ふ 影見せて
たな引くさまの床しさや

一四三拍子

三拍子には普通四分の三拍子、八分の三拍子、
稀に二分の三拍子等がある。



胡蝶と雲雀

アメリカ曲

$\text{♩} = 120$
mp
 二ツバサカ ロク マ ヒ マ ヒ
 二つばさかろくまひまひ

mf *p*
 ハ ナ ノ ウ ヘ ニ タ ハ ル ル ヒ
 く も の は て に う た ふ は ち

mf
 ラ ヒ ラ ヒ ラ ヒ ラ ウ
 よ ち よ ち よ ち よ は

mf
 タ ヒ シ ラ ス コ テ フ ハ ソ
 な に お も き ひ ば ー り は か

mf
 ラ ノ ヒ バ リ ウ ラ ヤ ミ ス
 ろ き こ て ふ う ら や み ぬ

mp (メツピアノ) = やや弱く。 *mf* (メツフォルテ) = やや強く。
p (ピアノ) = 弱く。 *f* (フォルテ) = 強く。 *m* (mezzo) は中庸の意。

(鑑賞曲) 春のほゝるみ

Depret.

5.

- a. スラー (slur)..... 音の高さを異にせる二音以上の音列を滑かに奏することを示す記號。
 - b. タイ (tie)..... 同じ高さの二音符を結合する記號。
- 反復記號 ($\square 1 \quad \square 2 \quad \square$) に注意。

	二		一	
輕き胡蝶	花に重き	雲雀は	翼 <small>つばさ</small> かろく	舞 <small>ま</small> ひ舞 <small>ま</small> ひ
羨 <small>あやま</small> みぬ	雲 <small>き</small> の涯 <small>は</small> に	うたふは	花の上に	たはるる
	ちよちよ	うたふは	ひらひら	ひらひら
	花に重き	雲雀は	空の雲雀	羨 <small>あやま</small> みぬ
	羨 <small>あやま</small> みぬ	雲雀は	翼 <small>つばさ</small> たかく	舞 <small>ま</small> ひ舞 <small>ま</small> ひ
			うたひ知らぬ	胡蝶は

胡蝶と雲雀
藤村 俊

一五 二拍子

二拍子には四分の二拍子、八拍の二拍子、二分の二拍子等がある。

又は

6.

7.

8.

Fine.

D.C.

D.C. (Da Capo) 始に反る。Fine(フィーネ)終止。



ハイドン (Francis Joseph Haydn 1732—1809) ハンガリーとの國境に近いオーストリアの一農村ローラウには今でも蔭に蔽はれた粗末なハイドンの生家が残されて居る。彼の祖先はその土地の農家で、車大工を父とし、料理婦を母として十二人の子の第二子として生れたのである。始め遠い町に居る従兄の許に預けられ、此處で學校教育を受けた。幼時から樂才を表はし、エステルハツイ公の後援を受けて作曲に専念し、その死後英國に迎へられ聖劇「天地創造」「四季」の二大作を作曲演奏して名聲を博しオックスフォード大學より音樂博士の名譽を授けられた。1809年フランス軍のウイナ包圍に逢ひ、屋外に砲彈の炸裂する音を聞き、自作の「國々歌」を奏しながら昏倒し、その儘數日にして八十年に近い生涯を終つた。性快活恬淡、樂天家であつて然も絶大なる努力家であつた。其の残す所の作品は千百曲を超え、殊に彼の功績として特筆すべきは「ソナタ型式」の完成で「ソナタの父」と言はれてゐる。又室内樂の軌範を示した事も記憶すべき事である。

(鑑賞曲)

「驚愕シンホニー」より

Andante

9. Haydn.

(♪)の黒點は特にその音を切り離して短かく奏すべきことを示す。此の方法をスタカート(頓音)といふ。

シャープ(sharp)=嬰記號……………半音上げる

(鑑賞曲)

朝の祈り

Adagio

10.

Andante(アンダンテ)併歩に。Adagio(アダージョ)緩徐に。

11. 

五月の野邊


J-108

mp

Helston



一. ナ ゴーリ ノーハ ナーモ チーリ ハテ ユー キテ
 二. む らーさ きーに ほーふ のーも せ のーふーぢ も



ヤ マーベ モーノ ベーモ ターダ ヒ トーイー ロ ニ
 か はーべ にーた るーる うーの は なーがーき も



メ モ サ エーザ エ ト ミー ド リ アーフー レ テ チ
 い づ れ かーな つ の よーそ ほ ひーなーら ぬ や



カ ラ ノ ミー ナーギール ナーツ ハ チーカー ズ ク
 ま う ぐ ひーすーさーへ けーし き をーそーへ ぬ

(鑑賞曲)

ガボット

Allegretto

Gluck.

12. 



後略

Allegretto (アレグレット) = やゝ快速に

五月の野邊

水田詩仙

一 名残の花も 散り果てゆきて

山邊も野邊も たゞ一色に

眼もさえざえご 緑あふれて

力の漲る 夏は近づく

二 むらさき匂ふ 野もせの藤も

川邊にたるる 卯の花垣も

いづれか夏の 粧ならぬ

山鶯さへ 氣色を添へぬ

13.

應援の歌 ドイツ民謡

mf ♩ = 108

一. ト ブ ニ モ ニ タ リ ゴ ー ル ハ チ カ シ
 二. か う き い た れ り フ ル ベ ー ス な る ぞ
 三. ピ ッ チ ハ ア ガ リ オ ー ル ハ ハ ヅ ム

ト ツ プ ラ キ ソ フ ラ ス ト ノ ヘ ビ ー
 セ ン き う つ ミ め た だ い ち げ き に
 オ ヒ ツ オ ハ レ ツ ボ ー ト ハ ス ベ ル

カ ケ ヨ カ ケ ヨ イ マ ヒ ト ト ビ ヨ
 う て よ う て よ ほ ん る だ を う て よ
 コ ゲ ヨ コ ゲ ヨ イ ッ ティ シン モ ヌ ケ ヨ

14.

應援の歌

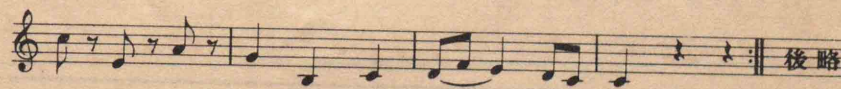
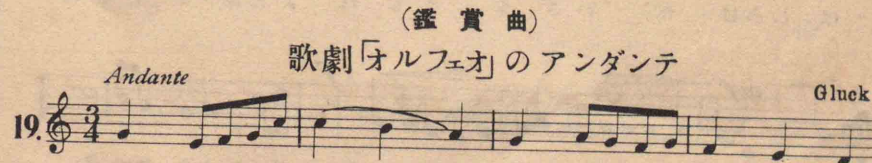
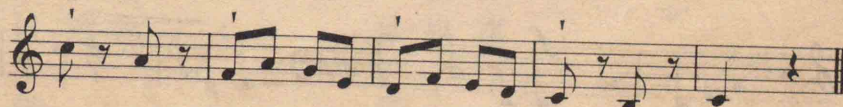
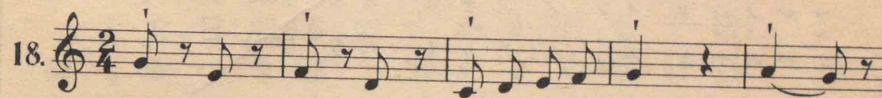
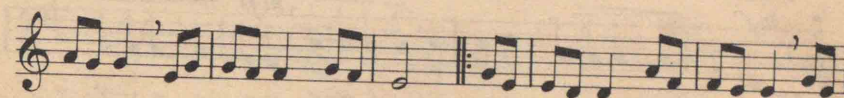
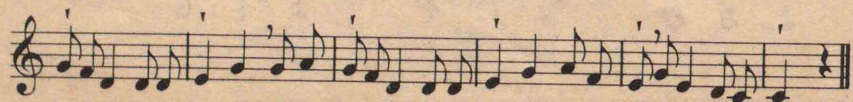
桑田つねし

三	二	一
漕げよ 追ひつ追はれつ 漕げよ 一艇身もぬけよ	[短艇] ピッチはあがり オールははづむ ボールは滑る	[野球] 好機到れり フルベースなるぞ 只一撃に 選球つこめ 本壘打をうてよ
		[徒競走] 飛ぶにも似たり ゴールは近し トップを競ふ ラストのへビー かけよ かけよ いま一飛びよ

一六 不完全小節による楽曲

既習の楽曲は拍子の第一拍から始まり、拍子記號の示す拍數を完備したものであつた。

然るに楽曲は他の何れの拍からでも始められる。此の場合の第一小節及び最終小節は所定の拍數を完備せざる故不完全小節といひ、下圖の曲のA, Bはその一例で、之の兩者を加へて初めて一箇の完全小節をなすものである。



日章旗

Schwarz

♩ = 108

一. ヒナ ノ コラノ モロ テニカザシ フル ハ コレゾ ヒノ
 二. そら は あをく すみ ゆくこころ しろ く たてる ふじ

マルノハタ イソ ノ ノキニ タチ ナビクーモ ハエ
 のかみやま みね に たかく たな びきたてる はえ

アルヒノ ミハタ イザ ヤ カザ セ ヨ チカ
 あるひのみは た いざ や ながめ よ うる

ラノミハ タ イザ ヤ カカゲ ヨメグ ミ ノミハ
 はしみは た いざ や まも れ よたふ こきみは

タ キミノミツトモ ニカガヤク ワ ガーヒノミ ハーダ
 た くがにうみぢにさか えひらめく わ がーひのみはーた

日章旗

藤村俊

一 鄙の子等の諸手に翳し
 振るは之ぞ日の丸の旗
 磯の軒に立ちなびくも
 榮ある日の御旗
 いざや かざせよ 力の御旗
 いざや かけよ 恵の御旗
 君の御稜威と共輝く 我が日の御旗

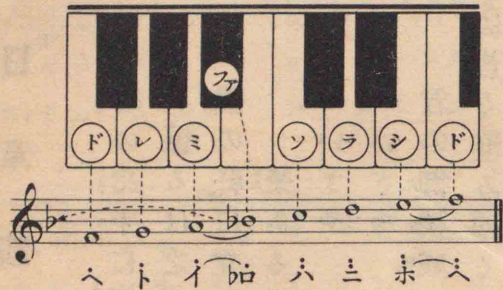
二 空は蒼く澄みゆく所
 白く立てる富士の神山
 嶺に高く棚引き立てる
 榮ある日の御旗
 まながめよ 麗し御旗
 尊き御旗
 我が日の御旗

陸に海路に 榮え閃く
 いざや まもれよ 尊き御旗
 いざや ながめよ 麗し御旗
 我が日の御旗

一七 へ調の練習

へ音を第一音 (Do) とする長音階をへ調長音階といふ。此の音階は口音を半音下げて作る。

へ調は口音に變記號を必要とする故、之を音部



記號の次に記載してへ調の調號とする。

半音下げるには變記號(b)を用ひる。

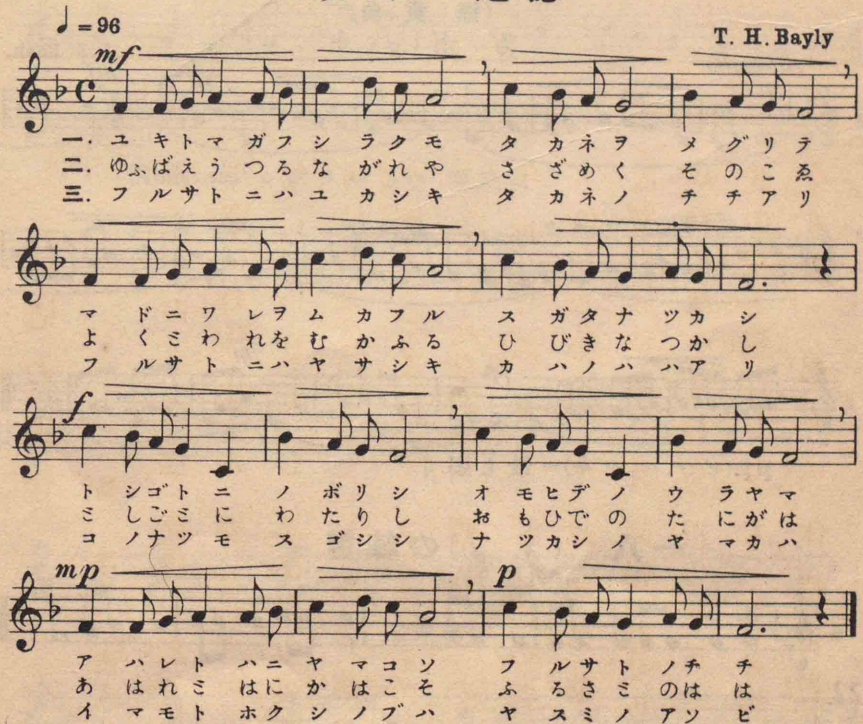
(鑑賞曲)

スエーデン民謡



故郷の追憶

T. H. Bayly



故郷の追憶

黒澤 隆 朝

一 雪ごまがふ白雲 高嶺を廻りて 車窓にわれを迎ふる 姿なつかし 年毎に登りし 思ひ出の裏山
二 あはれ永久に山こそ 故郷の慈父 夕映うつる流や さざめくその聲 「よく」ごわれを迎ふる 響なつかし 年毎に涉りし 思ひ出の谷川
三 あはれ永久に川こそ 故郷の慈母 故郷にはゆかしき 高嶺の慈父あり 故郷にはやさしき 川の慈母あり 此の夏も過ぎしし なつかしの山川 今も遠く忍ぶは 休暇の遊び



バッハ (Johann Sebastian Bach 1685—1750) 中部ドイツに音楽の家として二百年間許り遺傳的に代々勝れた音楽家の輩出した一家があつた 之は有名なバッハ家でその中に一層輝きを見せたのはヨハン・セバスチアン・バッハである。バッハは父からヴァイオリンの奏法等を學んだが十歳の時孤兒となり、兄クリストフの側にあつて寸暇を惜んでオルガンの練習作曲に努め、オルガン奏者としてその地歩を進めて行つた。彼の勤勉は極度のもので老後失明したのもそれが原因をなすといはれてゐる。幼時兄の承諾を得る事が出来ないので月夜に私かに樂譜を寫し取つた等の挿話も傳へられてゐる。彼は二十人に近い子女に守られて六十五歳で死んだ。彼の偉大なのは近代音楽の開祖としての貢獻で、今日では彼以前の音楽は殆ど忘れられてしまつてゐる程である。かの大建築の如き嚴正緻密な作曲は、二百年後の今日さへバイブルの如くに尊敬され、今日の音楽で彼の手法に影響されてゐないものはないと言はれる程である。音楽上の功績は枚擧に遑ない程であるが、就中フーゲ形式を最大高速な作曲形式にまで導き、ピアノの調律に十二半音の平均率を用ひ、此の爲め四十八曲の模範的ピアノ曲を残した。之はバッハの四十八曲と言つて舊約聖書に擬せられてゐるものである。

(鑑賞曲)
ガボット

Allegretto *p* *mf* J. S. Bach.

pp(ピアニッシモ)=最も弱く

一八 (♩ ♪)の練習

a

b

23.

Moderato *mf* 英國々歌

Moderato(モデラート)=中庸に

b フラット(flat)=變記號……………半音下げる

♮ ナチュラル(natural)=本位記號……………本位音に歸す

25.

(*の記號はハ調に轉じたる所)

26.

秋の山樂

mf $\text{♩} = 132$ ドイツ曲

一. ス ス キ ノ ノ ベ ニ ハ ギ ノ ラ カ ニ
 二. の ぎ く の た に に く ず の い は に
 三. ヒ ゴ ト ノ ワ ザ ニ ナ エ シ コ コ ロ

ア キ ツ ノ ハ ラ ニ テ ラ ト リ
 も み ぢ の み ね に て を の べ
 ケ フ コ ソ イ ヤ セ モ ロ ト モ

mp

イ ザ ヤ ア ソ ベ イ ザ ヤ ウ タ へ
 い ぢ や わ た れ い ぢ や ヤ の ぼ へ
 い ザ ヤ ア ソ ベ イ ザ ヤ ウ タ

mf

ウ レ シ キ ケ フ ノ ヤ ス ミ ラ
 す が し き け ふ の や す み を
 ス ミ ャ ツ ラ ニ ノ ヤ ヤ マ ニ

(鑑賞曲) 奥國國歌

27. *Moderato* Haydn

p

mf

f

秋の山樂

一 薄の野邊に 萩の丘に
 蜻蛉の原に 手をこり
 いざや遊べ いざや歌へ
 うれしき今日の休日やすみを

二 野菊の谷に、葛の巖いわに
 紅葉の嶺たねに 手をのべ
 いざや渉わたれ いざや登のぼれ
 すがしき今日の休日やすみを

三 毎まい日の業わざに 萎なえし心
 今日こそ癒なせ もろこも
 いざや遊べ いざや歌へ
 澄みゆく空に 野山に

藤村 俊

一九 ト調の練習

ト音を第一音 (Do) とする長音階をト調長音階といふ。此の音階はヘ音を半音上げて作る。

半音上げるには嬰記號(♯)を用ひる。

トイロハミホヘト

ト調はヘ音に嬰記號を必要とする故、之を曲首に出してト調の調號とする。

28.

29. *Andante* *mp* *mf* *ドイツ民謡*

愛國の歌

F. Giardini

mf

一. ホメヨタタヘヨアマツヒーツギヲ
 二. ほめよたたたへようましやまかは
 三. ホメヨタタヘヨワカキチーカラヲ

mf

ア フ ゲ ヨ カ ミ ノ ミ コ ノ シ ラ ス
 う た へ よ か か み よ こ ほ く し つ ぎ
 ハ ゲ メ ヨ ク ガ ノ ハ テ ニ ウ ミ ノ

f

ミタレヨラドイミヤソサソカソニハママモレレヤ
 たへしかなみのかみくハタマモレレヤ
 ハテニナビクミハタマモレレヤ

ドレミファソラシド

靡く皇旗	海のはてに	勵めよ	讚めよ	神の御國	繼ぎつたへし	うたへよ	讚めよ	いや榮えに	しらす御代を	仰げよ	讚めよ	愛國の歌
護れや	陸のはてに	稱へよ	稱へよ	護れや	神代遠く	神へよ	稱へよ	護れや	天津日嗣を	神の御子の	稱へよ	水田詩仙

ドレミファソラシド

♩ = 92

30. *mf* *p* *mf* ドイツ民謡

ソ ド ソラドレ レミドレ ミソソハミレ

ソ ソ ソ ソ ソ ソ ソ ソ ソ ソ

ソ ソ ソ ソ ソ ソ ソ ソ ソ ソ

海國少年

イギリス曲

♩ = 120

一 二 三

ソ ド ソラドレ レミドレ ミソソハミレ

ドヨロブのレクミニレノミウソノドミレトローニイム

一 二 三

イ マ コ ソ ミ ヨ ヤ ウー ミ ニ ソンダーツ

ドチキレトミミハミナドコニゾツカー

一 二 三

ウネンワレコソユーカメフ

一 二 三

ン リノハタウモナニカオソレンカ

コクノタカラハワレラマーテーリ

一 二 三

タキカヒガヤニコギテセイヤン

海國少年

植村 甫

一 見よわが國の海の廣さ

涯なき富はみな此處にぞ

海國少年 我こそ行かめ

富國の寶は 我を待てり

二 萬の國に通ふ海路

旭の御旗高く掲げ

海國少年 我こそ行かめ

國威の煌き 照せいざや

三 今こそ見よや海に育つ

少年我等の意氣を見よや

萬里の波濤も何か怖れん

堅き腕に 漕ぎて行かん



二〇 ニ調の練習

ニ音を第一音 (Do) とする長音階をニ調長音階といひ、ヘ音と更にハ音を半音上げて作る。

ニ ホ #ヘ ト イ ロ #ハ ニ

ニ調はト調の調號に更にハ音、即ち第三間に嬰記號を加へて調號とする。

31.

32.

二一 八分音符を一拍とする拍子練習

33.

34.

反復記號

ドイツ民謡

35.

遠 足

♩ = 156

ドイツ民謡

mf

一. サギリワタルムラノアタリカ
二. ソらはあをくやまはたか
三. アソビはツカレウタヒツカレ

シセコ
ドクヒ
レシノ
スズフ
エスケ
コにシ
ノエシ
リダゴ
トハス
ニゼリ
タカカ
ナクバ
ニコムク
ニをユ
タバロ
ナをコ

mf

キミア
ズラヤ
エシシ
ミモガ
モオス
ゲモヤ
カベシ
トラガ
ヒリス
テねモ
シのダ
ザリラ
トミカ
トねモ
ノのロ
バみコ

mf

ンヤモ
カチオ
ユコノ
ラコタ
サむマ
アをル
ヒヅユ
スミハ
ヲシニ
キのヒ
キマク
ヨヤカ

遠 足

桑田つねし

一 狭霧互る 村のあたり

彼方に此方に 鶏の聲すれど
柴の戸閉して 人影も見えず

清き氣を吸ひて 朝を行かん

二 空は蒼く 山は高く

青葉を吹く風 肌はだに涼しく

蟬の音鳥の音 調しらべも面白

深山の清水を 汲くみむ心地や

三 遊び疲れ 歌ひ疲れ

心ゆくばかり すごしし今日の日

心も身み體たも すがしや すがしや

赤く日に映うつゆる 數多おほの面おもて

ドイツ民謡

36

♩ = 90

アメリカ曲

37

(鑑賞曲)

イギリス歌謡

38

Moderato
mp

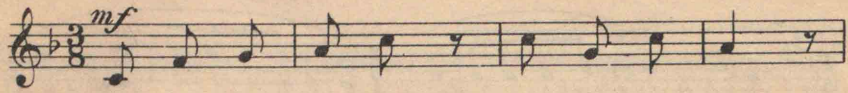
Foster

39

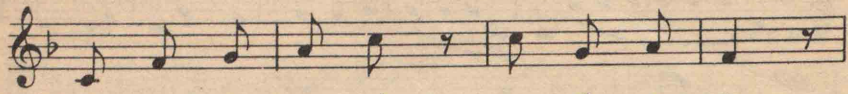
冬の旅

♩ = 120

Cook



一. フユガレノ ノヲユク
二. むらゆきの のをゆく



アサノタビ スガシヤ
よるのたび おもしろ



イロモア ラヌ ヤチ グサ
こころ あで のやま みち



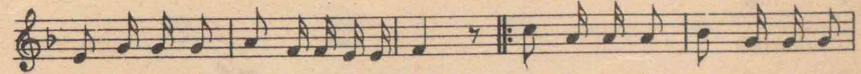
フリモヨ シイツ ルヒニ
をりもよし つきの でに



トキノナ ラヌ ナナ イロノ
このよなる ぎく でんミ



シモノハ ナカガ ヤケリ
きぐさみ なか が や けり



冬の旅

黒澤隆朝

一 冬枯れの野をゆく

朝の旅すがしや

色もあらぬ八千草

折もよし出づる日に

時ならぬ七色の

霜の花かがやけり

二 むら雪の野をゆく

夜の旅おもしろ

心あての山路

折もよし月の出に

此の世なる玉殿

水草みな輝けり

ドイツ民謡

41. *mp*

雪 戦

ドイツ民謡

mf

一. ツ ラ ハ ア ラ ク ハ レ テ ア
 二. う れ し ゆ き に つ め ふ わ
 三. ウ テ ト キ ホ フ コ エ ニ ウ
 四. う れ し さ む き ふ ゆ も た

p *mf*

サ ヒ タ カ ク ユ キ ハ ニ ハ モ ニ シ ロ ク カ ガ
 か き ミ ナ も よ に し に ひ が し か ち を き そ そ
 デ ハ ナ リ テ ヲ キ ノ マ タ マ マ ハ マ ハ マ マ マ マ マ マ マ マ マ マ
 ギ ハ ナ ア セ に お も は が が や き ち し ほ た か

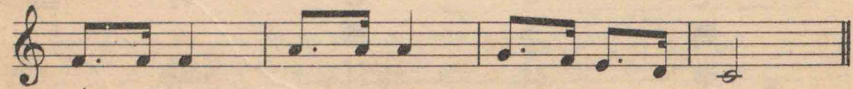
ヤ キ コ ヨ ト ト モ ラ サ ソ フ
 は き た の し ゆ ま き の の あ そ び
 な る た の ル の ヤ マ ツ の の あ そ キ
 な る た の ル の ヤ マ ツ の の あ そ キ

雪 戦

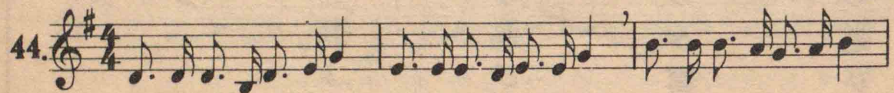
平井幸

- 一 空は青く晴れて 旭日高く
雪は庭面に白く輝き
来よご友を誘ふ
- 二 うれし雪に集ふ 若き友よ
西に東に勝をきそはん
たのし雪の遊び
- 三 撃てこきほふ聲に 腕はなりて
雪の眞玉は空に飛び交ひ
散るや松のみ雪
- 四 うれし寒き冬も たぎる汗に
面は輝き血潮高鳴る
たのし雪の遊び

二二 (. . .) の練習



スコットランド民謡



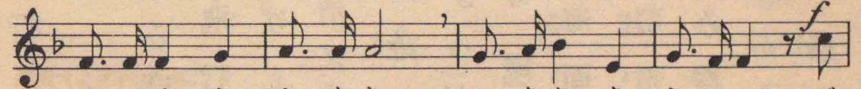
飛行機

♩ = 120

ドイツ民謡



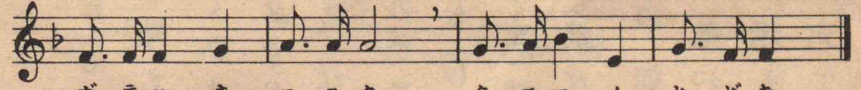
一.	ハ	ル	カ	ミ	ソ	ラ	ニ	ト	リ	カ	ト	ミ	エ	シ	ク
二.	サ	ん	せん	か	う	わ	ん	た	だ	た	の	ご	ミ	く	が
三.	ア	キ	ノ	ニ	ム	レ	ト	ブ	ア	キ	ツ	ノ	ゴ	ト	ク



モ	マ	ノ	ヒ	カ	ウ	キ	マ	タ	タ	ク	ヒ	マ	ニ	バ
ん	か	に	ひ	ろ	が	る	な	が	め	お	も	し	ろ	む
テ	ナ	キ	ミ	ソ	ラ	ニ	ト	ベ	ヨ	ヒ	カ	ウ	キ	ミ



ク	オ	ン	ハ	ゲ	シ	ク	ツ	ジャ	ウ	ラ	ヨ	ギ	リ	ヤ
げ	ん	の	さ	か	ひ	に	ミ	び	ゆ	く	こ	こ	ち	ば
ク	ニ	ノ	サ	カ	エ	ラ	セ	カ	イ	ニ	シ	メ	シ	ト



ガ	テ	ハ	キ	エ	ユ	ク	ク	モ	マ	ノ	ヒ	ビ	キ
ん	り	の	う	な	も	も	た	だ	ひ	ミ	ミ	び	に
ド	ロ	ク	バ	ク	オ	ン	テ	ン	チ	ニ	ミ	テ	ヨ

46.

三	二	一
轟皇涯秋萬無眼山爆雲は	く國な野里限下川音間か	くのなきにのののにひろ川港灣
のさかえを	み空に	群飛ぶ
天地に充てよ	飛べよ飛行機	蜻蛉の如く
		ただ繪のごとく
		眺おもしろ
		飛び行く心地や
		ただ一飛びに
		雲間のひびき
		頭上をよぎりて
		またたくひまに
		鳥かご見えし

飛行機

桑田つねし

二三 輪唱の練習

47.

福壽草

$\text{♩} = 108$ ドイツ曲

I.

一. シ ラ ユ キー トー ザ セー ル ミ ヤ ー マ ノ フー モー ト
 二. あ て に ほ こー ら ざー る つ つ ま し す がー たー は
 三. カ フ リ ヲ モー シ ラー ス ケ ナ ゲ ノ ス ガー ター ハ

I.

ヒ マ モ ルー ヒー カ ゲー ニ ホ ホ エ ム フ クー シ ャ ウ
 は な の さー きー が けー ミ げ に ー も た のー も し や
 ハ ル ノ コー トー ブ レー ト ゲ ニ ー モ メ デー タ シ ヤ

三	二	一
實の言ふれこ	華美に誇らざる	白雪ござせる
春の言ふれこ	つつまし姿は	深山の麓
健實の姿は	花の魁ご	隙もる日影に
薫をも知らぬ	實にも頼もしや	微笑む福壽草

福壽草

水田詩仙

野寺の鐘

イギリス曲

♩ = 120

I.

一. ア サ ケ ラ ツ ゲ ク ル ノ デ ラ ノ カ ネ
 二. い り あ ひ つ げ く る の で ら の か ね
 三. ト ボ ソ ラ モ レ ク ル ノ デ ラ ノ カ ネ

II.

モ ノ ウ キ ヤ ヨ ヒ ノ ユ メ フ サ ソ フ
 な が る る ひ び き は は な を ゆ す る
 オ ボ ロ ニ イ ロ ド ル ツ キ ノ ヒ カ リ

III.

ゴーン ゴーン ゴン ゴン ゴーン
 ゴーン ゴーン ゴン ゴン ゴーン
 ゴーン ゴーン ゴン ゴン ゴーン

野 寺 の 鐘

植 村 甫

一 朝^あ明^あを告^つげくる野寺の鐘
 物^{もの}憂^{うれ}き彌^や生^なの夢^{ゆめ}を誘^さふ
 ゴーン ゴン ゴン ゴン ゴン

二 入^い相^あ告^つげくる野寺の鐘
 流^{なが}る響^なは花^{はな}を揺^ゆする
 ゴーン ゴン ゴン ゴン ゴン

三 戸^とぼそを溢^あれくる野寺の鐘
 朧^{おぼろ}にいろどる月の光
 ゴーン ゴン ゴン ゴン ゴン

Song

Twinkle, Twinkle, Little Star.

Allegro.

1. Twin - kle, twin - kle, lit - tle star; How I won - der
 2. When the blaz - ing sun is gone, When he noth - ing
 3. Then the trav - ller in the dark, Thanks you for the

what you are, Up a - bove the world so high,
 shines up - on, Then you show your lit - tle light,
 ti - ny spark; He could not see which way to go,

Like a dia - mond in the sky!
 Twin - kle twin - kle all the night. } Twin - kle, twin - kle,
 If you did not twin kle so.

lit - tle star; How I won - der what you are!

The Cuckoo.

Allegretto.

1. Cuck - oo, Cuck - oo, wel - come thy song;
 2. Cuck - oo, Cuck - oo, war - ble a - way;
 3. Cuck - oo, Cuck - oo, cease not thy song;

Win - ter is go - ing, Soft breez - es blow - ing,
 Bring the sweet flow - ers, Sun - shine and show - ers,
 When thou art roam - ing, Bright days are com - ing,

Spring - time, spring - time, soon will be here.
 Spring - time, spring - time, do not de - lay.
 Spring - time, spring - time, ha - sten a - long.

Lightly Row.

Allegretto.



1. Light-ly row! Light-ly row! O'er the glass-y waves we go;

2. Far a-way! Far a-way! Ech-o in the rock at play,



Smooth-ly glide! Smooth-ly glide! On the si-lent tide.

Call-eth not, Call-eth not, To this lone-ly spot.



Let the winds and wa-ters be Mingl-ed with our mel-o-dy;

On-ly with the sea bird's note, Shall our dy-ing mus-ic float!



Sing and float! Sing and float! In our lit-tle boat.

Light-ly row! Light-ly row! Ech-o's voice is low.

發行所

東京市芝區松本町四十四番地
會社資 共益商社書店

電話三田四〇五・四〇五七
振替東京 壹五八〇

不復轉
許製載



印刷所

印刷者

著者

共益商社書店印刷部

會社資 共益商社書店
代表者 白井保男

東京市芝區松本町四十四番地

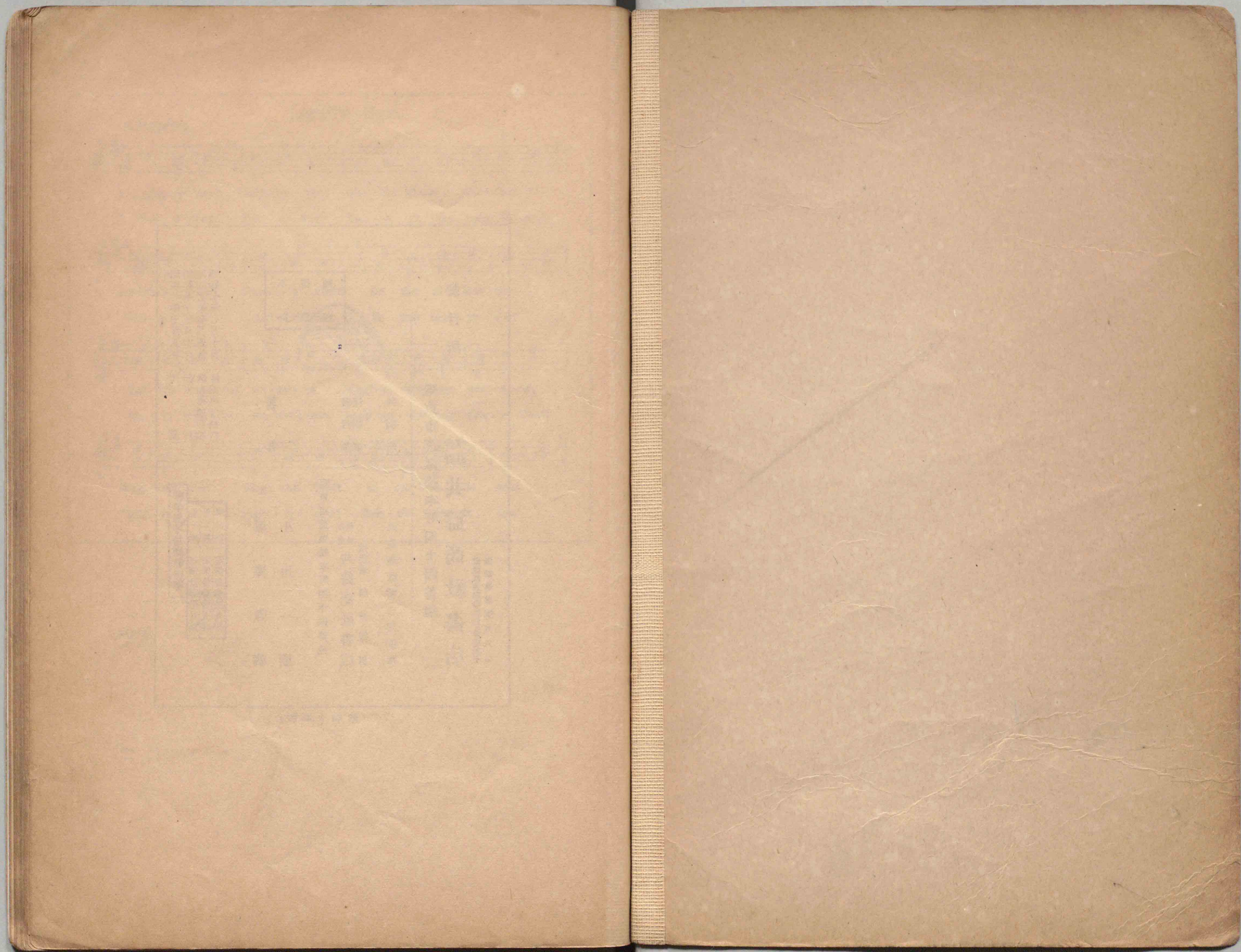
黑澤 小川 一朗 著

昭和七年三月五日
昭和七年七月十日
昭和七年七月十日

發行
修正再版發行
印刷

標準男子音樂教科書
第一編 定價金參拾五錢
第二編 定價金參拾五錢
第三編 定價金參拾九錢

(昭和十年版)



三三三

